農林金融2011年２月号

金融論の新展開と組合金融論

（田中久義）

農協信用事業は、農業金融論、組合金融論などの名のもとに論じられてきたが、金融理論の変化は考慮されていない。

金融論では、根幹をなす信用創造理論で新たな展開がみられる。信用創造理論の問題を金融機関の業務にあてはめると、その出発点が預金にあるのか貸出にあるのかを問うものである。これまでは預貯金が先と考えられてきたが、現在では貸出先行論が定着しつつある。

しかし、このような変化は信用事業論には反映されておらず、「集めた金を貸し出す」という貯金先行論が維持されている。

信用事業論について、新たな金融論の展開を加味した理論の確立が必要である。

金融危機と協同組合銀行

（重頭ユカリ）

金融危機においても欧州の協同組合銀行は、商業銀行に比べると安定的であったが、欧州協同組合銀行協会は、その要因として、①組合員が所有者というコーポレートガバナンスの構造、②組合員や顧客のニーズに対応するという目的をもち、より伝統的な「仲介機能」を基盤とするビジネスモデル、③グループ内部で機関保証制度を持つことを挙げている。

金融危機の後、さまざまな研究機関や国際機関から協同組合銀行に関するレポートが数多く刊行された。それらの結果に基づき、欧州では、協同組合銀行も含めた多様な金融機関が存在していることは金融システムの安定性を高めることにつながるという見方が、規制・政策策定者にも受け入れられつつある。

農林金融2011年３月号

農地の流動化・集積が進む日本農業

（内田多喜生）

2010年センサスで日本の農業構造の変化をみると、農家の大幅な減少や農業就業人口の高齢化の進行にもかかわらず農地の減少・耕作放棄地の拡大に一定の歯止めがみられたことが注目される。

この背景を農地の出し手と利用側に分けて考えると、農地の出し手側の要因としては、最大の出し手である土地持ち非農家が所有農地を貸し出す傾向を強めたことが、また農地の利用側の要因としては、農地の受け皿づくりの整備がこの間進んだことがあげられる。

農地の流動化は今後さらに進むとみられ、農協系統としては農地の仲介機能強化と集落営農等受け皿組織の育成・関係強化とともに、非農家の地域住民や元農家の農地所有者の組織化等で、農業集落機能の維持・活性化を図っていく必要があろう。

コメをめぐる状況の変化と地域としての取組み

（小針美和）

本稿では、地域水田農業の取組みのうち乾燥調製・保管機能やそれを担うカントリーエレベーター等の施設の運営に着目した。産地では、主に農協が施設の運営にあたっているが、稼働率低下や老朽化の問題を抱えている。

しかし、マーケットインの発想で「需要に応じた生産」を行う上では、需要ニーズの多様化への対応や、適切な流通管理といった乾燥調製・保管機能の高度化が産地に求められ、更なる施設の適切な運営が必要となっている。先進的な地域では、施設の新たな機能を発揮する取組みを進めるなかで稼働率を高めている事例もみられる。地域水田農業のあるべき姿は、マーケットインの発想にもとづき、地域に応じた生産体制をどのように構築するかを地域自らが考え、描いていくことが望ましい。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。

農林金融2011年２月号

集落営農法人が担う地域農業の変革

（福田竜一）

中山間地域における水田農業では、個別経営体による合理性追求の限界が早い時期に露呈した。そのような地域では、一部に集落営農の組織化や法人化にとどまることなく、広域的な組織間連携（ネットワーク化）等を通じて、地域農業における個別経営体の合理性と地域全体的な合理性を同時に追求しうる取組みが実践されている。さらにそうした組織は「新しい農協」としての役割も果たすようになっており、今後それらと農協がどのような関係性を構築するのかが課題である。

他方、すでに農協が核となって集落営農法人のネットワーク化を実現している事例もあり、集落営農法人のみならず、小規模農家等を含めて、農協が核となって地域農業の全体合理性を追求することも十分可能である。

病院給食における食材調達と地産地消

（尾高恵美）

病院給食の食材では、鮮度、安全性、価格が重視され、その取引方法としては、急な数量の変更に対応しつつ必要な確実に品揃えすることが求められる。このため、野菜の調達について、一般的には、卸売市場と小売業者の機能を生かした取引方法が中心であり、地元の生産者や農協等からの調達はごくわずかとみられる。

しかし、JA厚生連病院では85%が2009年度に地場産野菜を使用した。生産者組織や、農協の営農販売部署、Aコープや直売所が地場産野菜の取引チャネルを担うケースが多い。

本稿で注目した直売所を核とする事例では、直売所が、物流機能を備えつつ、品揃えを充実させ、安全性や鮮度を確保する対策を主導して取り組んでいる。

農林金融2011年３月号（当社研究員以外の論文紹介）

農作業受委託の進展における農協の役割・取組み

（（財）農村金融研究会主任研究員　尾中謙治）

はじめに
1　作業受託組織と農協の関係
　(1)　受託組織の概況
　(2)　農協の利用状況
　(3)　農協への要望
2　作業委託者と農協の関係
　(1)　作業委託者の概況
　(2)　農協の利用状況
　(3)　委託者の農協への関心・親近感
3　作業受委託者と地域・集落の関係
　(1)　作業受託組織と委託農家の関係
　(2)　作業受託組織と非農家の関係
　(3)　作業委託者間の関係
　(4)　10年後の集落の稲作農業
4　今後の農協の役割
　(1)　作業受託組織に対して
　(2)　作業委託者に対して
　(3)　地域・集落に対して

金融市場

2011年３月号

情勢判断
1　2011年半ばにかけて徐々に強まる景気回復力
2　強まるインフレ観測とFRB
3　欧州の財政問題を巡る最近の動向とその評価

2010～2012年度改訂経済見通し

分析レポート
1　環境金融をリードする住友信託銀行の取組み
　～お客様へのソリューションの提供が新たな市場を開拓する～
2　顧客とのつながり深める名古屋銀行のリテール戦略
　～住宅ローン推進と預かり資産業務を中心に～
3　地域経済格差の広がりと地銀の経営

連載
1　中国経済・金融を読む＜第10回＞
　中国の2011年「一号文件」について
2　景気の先行指標⑦
　長短金利差消費者態度指数

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。